

機関番号：34415

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成20～22年度

課題番号：20520341

研究課題名（和文）中国近世唱導文藝研究 — 江南地域における実態調査

研究課題名（英文）STUDY OF BAOJUAN 宝卷 AS THE TEXT OF FOLK RITUAL PERFORMANCE: FIELDWORK IN JIANGNAN 江南 DISTRICT

研究代表者

松家 裕子 (MATSUKA YUKO)

追手門学院大学・国際教養学部・教授

研究者番号：20215396

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国近世以来、今日にいたるまで民間で行われている、歌と語りによる唱導文藝である宝卷（宣卷）*について、実地調査（於浙江省紹興・平湖）と文献調査を行い、これらを総合したものである。個人宅や廟（神社の類）で行われる宗教的儀式に立ち会い、そのテキストを読み解くことによって、唱導文藝の担い手の性格 — 宗教者として、また芸能者としての — や、儀式における信仰の実相とテキストの内の信仰との関係 — 整合するとはかぎらない — など、中国文化史全体の問題にかかわる重要なことがらについて、いくつかの考えを提出した。*テキストとしてみる際には「宝卷」、パフォーマンスとしてみる際には「宣卷」を用いる。

研究成果の概要（英文）：Baojuan 宝卷, that means “precious volumes”, is the text of folk-ritual performance Xuanjuan 宣卷. We made ten fieldworks in Shaoxing 紹興 and Pinghu 平湖, Jiangnan 江南 district, observed the Xuanjuan and other folk-rituals, and took many photographs of Baojuan, such as four local texts of Maihua Baojuan 卖花宝卷. Now we have following suppositions about Baojuan and folk-ritual in China: 1) There can be great variety of the local text of Baojuan. 2) A performer often has both characters as a priest and entertainer. 3) The actual condition of folk religion is so complicated that in some cases the devotion is exclusive between the text where the text which is sung or narrated and the ritual.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成20年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成21年度	1,000,000	300,000	1,300,000
平成22年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国、唱導文藝（唱導文芸）、宝卷、宣卷、江南、浙江、紹興、平湖

1. 研究開始当初の背景

中国近世の唱導文藝である宝卷（宣卷）は、

その資料のゆたかさ、文化史上における重要性に比して、研究が十分に行われてこなかつ

た。しかし、近年、中国では、まとまったかたちで宝巻が刊行され、また車錫倫のものを中心として研究成果も多く公表されるようになってきた。一方、日本では、早く澤田瑞穂の文献研究があり、近年は磯部祐子、上田望、佐藤仁史などによって、宣巻の現地調査にもとづく研究が盛んになりつつある。さらに、日本文学には唱導文藝研究の豊かな蓄積もある。

上記のうち、磯部は、早く1990年代から、人々の生活の中にあるそのままのかたちで宣巻の調査を行い、文献資料からだけでは知りえなかった、唱導文藝にありようを、いきいきととらえて報告してきた。

本研究は、上述のような状況のなか、小南が重ねてきた主として文献による唱導文藝研究と、磯部の宣巻研究を総合することによって、宝巻研究に新しい視座が開かれ、豊かな実りがもたらされることを期待して、開始された。

2. 研究の目的

本研究は、実地調査と文献調査の両方の結果を総合し、宝巻（宣巻）のありようを、より正しく、また豊かに描き出すことを目的とするものであった。具体的には、以下のことをめざしていた。

- (1) 宝巻（テキスト）をより正確に読み解くこと。
- (2) テキストをとりまく宗教儀礼の実態をより正確かつ詳細に把握すること。
- (3) (1)(2)にもとづき、テキストとテキストをとりまく宗教儀礼とのかかわりについて考察し、説明を行うこと。

さらに、これらによって得られた結果は、宝巻のみならず、中国文化史全体にかかわる問題、たとえば、テキストとそれを成り立たせていた場との関係や、口承文芸の担い手の性格 — どのように宗教者であり、どのように芸能者であったのか — といった問題を解くことにつながる可能性があることも、意識していた。

3. 研究の方法

2. の目的に照らし、本研究では、実地調査と文献調査の両方を行い、さらにこれを総合することを試みた。

(1) 実地調査

磯部の主導により以下の調査を行った。

- ①2008年11月 於平湖
11月2日秋社および11月3日寄媽太太の開眼における説唱「鉞子書」の調査。
- ②2009年3月 於紹興
3月6日馬山鎮関帝廟における宣巻、3月7

日霊芝鎮における鸚哥戯の調査。

- ③2010年3月 於紹興
3月22日銭清鎮個人宅における宣巻、3月23日斗門鎮関帝殿における宣巻および3月24日東浦鎮龍口廟の土地神のまつり〔廟会〕における宣巻の調査。また、3月25日、目連戯の伝承者として認定を受けた、紹劇俳優への聞きとり調査。
- ④2011年1月 於平湖
1月23日周圩鎮三義廟「封閉」のまつりにおける説唱「太保書」、および1月24日新埭鎮の社における「鉞子書」の調査
* 以上すべての調査については、現地の協力者に多大なお世話になっている。名前は記さないが、ここに謝意を表したい。

(2) 文献調査

3名が各々以下のような調査を行った。

- ①『宝巻初集』『民間宝巻』『明清民間宗教経巻文獻』（正編・続編）など、刊行された宝巻テキストの読解と分析。
- ②中国（首都図書館など）および日本（国立国会図書館、早稲田大学図書館風陵文庫、京都大学人文科学研究所など）の図書館に所蔵されている宝巻テキストの読解と分析。
- ③実地調査で得られたテキストの読解と分析。

(3) 文献調査と実地調査の総合

澤田瑞穂・車錫倫などの、先行研究を参照しつつ、3名がそれぞれ報告をまとめ、あるいは、将来の報告作成のための準備作業を行った。

4. 研究成果

本研究の主たる成果は、下記「主な発表論文等」の雑誌論文1、2、3、5、および「図書」の示されている。これらをもとに、研究者ごとに述べる。

(1) 松家裕子

4. 研究成果

本研究の主たる成果は、下記「主な発表論文等」の「雑誌論文」1、2、3、4、6（7）、および「学会発表」1に示されているので、これらをもとに研究者ごとに述べる。

(1) 松家裕子

- ①『杏花宝巻』楽善堂版日本語訳（稿）
宝巻全巻の日本語訳は管見のおよぶかぎりないことから、これを試みた。
- ②「紹興の宣巻 — 二〇〇九年・馬山鎮寧桑村 —」

ひとつの宣巻について、調査で見聞きし、知り得たすべてを記述することをめざした。宣巻をとりまく信仰と音楽に注目し、娯楽性と宗教性の問題を解くためのいくつかの考えかたを提出している。宝巻（テキスト）は、その内容にほとんど宗教性が見られない場

合も、宣卷（パフォーマンス）にあつては、濃厚な宗教性が付与されている可能性があることを指摘したことは、とくに重要である。

③紹興民間の『売花宝巻』テキスト

磯部の研究（下記「学会発表」1）に触発され、実地調査で入手したテキスト3種および首都図書館所蔵のテキスト2種について、その物語の詳細を記述した。磯部の研究（同上）で指摘された、民間テキストの「可変性」すなわち変化の豊かさが、ここでも確認された。あわせて、そのテキストが歌い語られた宣巻の場でみられた信仰について記述し、テキストの内外の信仰の「ずれ」についても、いささか考察を加えた。

(2)小南一郎「香山寶巻 — 観世音菩薩の中国的生涯」

民間信仰の場における実地調査を重ねると、中国の、とりわけ女性たちの世界に、観音信仰が強くそして深く入りこんでいることを知ることができる。この論考では、この観世音菩薩の生涯を語る「香山寶巻」をとりあげ、一連の「婦女修行故事宝巻」が、女性たちの生活に根ざして生まれたものであったことを述べている。

(3) 磯部祐子

① 平湖鉞子書芸人に見る中国民間芸能の今

上記「3. 研究の方法」の(1)-①に挙げた調査の報告である。唱導文藝の場である、秋社のまつりと寄媽太太廟の開眼の儀式的次第と、これをとりまく状況を、丁寧に記述している。そこで唱えられた文言を、唱導文藝の担い手所有のテキストから書き起こし、これらすべてに日本語訳を付している。最後に述べられているように、鉞子書という、歌と語りによる唱導文藝の担い手が、娯楽を提供する芸能者でありつつ、まつりの進行を行う宗教者であることを述べているのが、とくに重要である。

② 紹興の宝巻 — 「三包宝巻」を中心に

上記「3. 研究の方法」の③の調査を中心に、磯部がこれまで紹興において行ってきた、宝巻（宣巻）の調査結果を、現時点でまとめたものである。『売花宝巻』の6種のテキスト（現地調査で画像が得られたもの3種、図書館に蔵されているもの2種、刊行されたもの1種）の物語りを、比較の便を図って、詳細な表によって示している。これによって、テキストの可変性が確認され、また地獄めぐりのモチーフの存在がはっきりと示されたことが、とくに重要である。

本研究で行った実地調査では、儀礼の一部始終をビデオ録画、写真撮影するとともに、そこで用いられた儀礼のテキストを写真撮影した。これらは、それじたい貴重な記録で

あるとともに、今後、文学史はもちろん、思想史、社会史の研究に役立つことになる。

なお、本研究では、従来型の冊子体報告書を刊行しており、詳細はそちらを参照されたい（請求先は下記〔その他〕欄）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計8件）

1、松家裕子、紹興民間の『売花宝巻』テキスト、中国近世唱導文藝研究 — 江南地域における実態調査（本科学研究費研究報告書）、査読無、2011、38-66、

2、小南一郎、香山寶巻 — 観世音菩薩の中国的生涯、中国近世唱導文藝研究 — 江南地域における実態調査（本科学研究費研究報告書）、査読無、2011、3-8、

3、松家裕子、紹興の宣巻 — 二〇〇九年・馬山鎮寧桑村 —、アジア学科年報（追手門学院大学）、査読無、第4号、2011、89-112、

4、小南一郎、「白蛇伝」と宋代の杭州、中国近世文藝論 — 農村祭祀から都市藝能へ、東洋文庫・東方書店、査読無、2009、191-212、

5、磯部祐子、平湖鉞子書芸人に見る中国民間芸能の今、富山大学人文学部紀要、査読無、第51号、2009、45-63、

6、磯部祐子、従平湖鉞子書芸人看中国民間曲芸的現状、2009年韓国中国小説学会創立20周年記念国際学術大会論文集、査読無、2009、218-230、（上記5を修正・補筆・中国語訳したもの）

7、小南一郎、「父母恩重経」の形成と孝子伝説の変貌、説話・伝承の脱領域（説話・伝承学会創立二十五周年記念論集）、査読無、2008、7-39、

8、磯部祐子、復活した宣巻活動、浙学、秋瑾、紹興師爺研究、査読無、2008

〔学会発表〕（計3件）

1、磯部祐子、紹興の宝巻 — 「三包宝巻」を中心に —、中国古典小説研究会関西例会、2011年2月11日、京都キャンパスプラザ、

2、磯部祐子、従平湖鉞子書芸人看中国民間曲芸的現状、招待講演、2009年韓国中国小説学会創立20周年記念国際学術大会、2009年9月19日、韓国・ソウル、

3、小南一郎、白蛇伝と宋代の杭州、第53回国際東方学者会議シンポジウム、中国近世文藝にみる都市と農村、2008年5月16日、教育会館（東京）

〔図書〕（計3件）

1、磯部祐子、他、多視角下中国語言与文化探討、韓国文化社、2010、pp289、うち磯部

執筆 257-277、

なし

2、松家裕子、『杏花宝巻』楽善堂版日本語訳（稿）、本科学研究費研究報告書、2010、85pp

1、小南一郎，他、中国近世文藝論 ―農村祭祀から都市藝能へ、東洋文庫・東方書店、2009、322pp、うち小南執筆 i-vii（はじめに）一縁起、191-212（上記雑誌論文4）、

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

冊子体報告書の請求など、本研究についての問い合わせ先：matuka@res.otemon.ac.jp（松家裕子）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松家 裕子 (MATSUKA YUKO)
追手門学院大学・国際教養学部・教授
研究者番号：20215396

(2) 研究分担者

小南 一郎 (KOMINAMI ICHIRO)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：50027554

磯部 祐子 (ISOBE YUKO)
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：00161696

(3) 連携研究者